

知的障害をもつ養護学校生徒の就労支援
- 「援助」「援護」「教授」の連環に基づく職場実習支援を目指した
学生ジョブコーチシステムの試行とジョブコーチのフェイディングに関する実践研究 -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター

近年、ジョブコーチ事業が注目されている。利用者が働く職場にジョブコーチが付き添い支援するという発想は、知的障害や自閉症を持つ方々に非常に有効とされているが、システム上ジョブコーチは恒久的に職場で支援を行なうことはできず、限られた時間で職場からフェイドアウトしなくてはならない。ジョブコーチはフェイドアウトに向けて直接支援や環境設定により利用者や職場を力づけて行く必要があるが、直接支援や環境設定をどのように用いてフェイディングを進めたかの実践研究はあまりみられず、未だ方法論は体系化されていない。

そこで、本研究では、養護学校生徒の立命館衣笠生協実習（9月に2週間、11月に2週間）にて、筆者がジョブコーチとして行なったフェイディング実践を報告した。また、本研究は、養護学校、生協との連携によって、「援助」「援護」「教授」の連環による職場実習支援を目指した「学生ジョブコーチシステム」の試行ケースでもある。この実践では、「個人と環境」の両面に焦点をあてており、個人のスキルアップだけでなく、個人が職場定着に必要な環境設定を蓄積し、移行支援や就労後のフォローアップに役立てていくことをねらいとしている。

学生ジョブコーチの支援手続きは、実習前：実習店舗で業務体験を行ない職務・課題分析を作成する 9月実習から11月実習前半：直接支援期として、システムティックインストラクションによる直接支援を行ないながら様々な環境設定を行なう 11月実習後半：間接支援期として、実習生を直接支援せず職員への働きかけを行なう、という大きな流れで行なわれた。また、9月実習と11月実習の間には、学生ジョブコーチが養護学校で校内学習を実施している。

実習生の作業パフォーマンス、学生ジョブコーチや職員によって与えられたサポート内容等の経過から、フェイディングの方略としての支援手続きの有効性が示されるとともに、フェイディング方法論の研究に関する今後の課題点が直接支援、間接支援の両面から提示された。また、学生ジョブコーチシステムについても、「援助」「援護」「教授」の連環による職場実習支援を進めるものとして機能したことが示され、今後の課題点について言及した。